

B—45 クロス・クロマトグラフィーに関する研究
(第4報)

香蘭女短大 ○樋口美智子
坂根 嘉子
東京農大農 石丸 因雄

1. 被服材料を固定相としてアミノ酸類, 糖類, 色素類のクロマトグラフィーをおこない, 被服材料の繊維の組成, 糸の構造, 織り方などとの関係を研究してきた。今報告は色素をもちいて各種布地の円形クロマトグラフ, 布地の「たて」及び「よこ」のクロマトグラフ及び布地を構成する「たて糸」及び「よこ糸」の中での色素

の移動の相関関係をしらべた結果を報告する。

2. 固定相として用いた被服材料は綿，麻，キュプラ，テトロン，ナイロンで，色素はメチルレッドとメチレンブルーの混合色素及びメチルオレンジとマラカイトグリーン¹の混合色素をブタノール：酢酸：水=2：1：1の混合液をもちいて展開をおこなった。

3. 円形クロマトグラフのえがく色素の模様とこの布地の「たて」及び「よこ」の上昇一次元展開による Rf との間には相関関係が見られるが，その布地のたて糸及びよこ糸一本の中での色素の移動は糸自体の構造による影響が大きいことがわかった。